

## 社会福祉協議会の体質改善！

現在、総合福祉会館の管理は社会福祉協議会が行っていますが、建物内のスペースや駐車場には介護保健事業に関係する部分も多く、本来の目的を達成するための機能を有していません。しかしこれは行政が「地域福祉」と言う役割を「総合福祉会館」と言う「社会福祉協議会」の目的には機能を果たしにくいスペースに丸投げしているのが原因であり、その根幹には社会福祉協議会の権限を持った方が全て行政からの派遣者か退職者であることが大きな要因であると考えます。行政体質そのままの下請け役が社会福祉協議会であり、予算がなければ事業が出来ない、しない体質がそこにあります。時代に対応できる地域福祉を考えた時にこの改善は急務です。



## ボランティア連絡協議会

ボランティア連絡協議会の役割は極めて重要であり、テーマは「自立」だと考えます。現在、協議会には36団体と個人会員で約80人が加盟しています。自立のためには、「ボラ連独自の事務スタッフと事務所の確保」と「財源の確保」により、更に質の高いサービスを提供し、しいては地域福祉の向上にもつながります。

## 障がい者の雇用！

障がいを持つ方の雇用の推進については、リサイクルプラザでの選別作業に精神障がいの方が入ることが決まっておりますが、この採用枠が年々増えるものでもありませんし、他の障がいの方の雇用についても進んでいるとは言えません。障がい者の雇用については、中丹養護学校の先生が卒業生の就職先を捜されるように、企業や事業主をお願いされているような努力が必用であり、障がいのある方の残された機能で対応可能な職業職種を調査研究し、雇用される側との綿密な摺り合わせでしか成立しないと考えます。

これを実行しようとするNPOが立ち上がり、それを行政等がバックアップする形が望ましいと考えます。

## 結婚への支援

未婚者の増加に伴い少子化は更に進み、年を重ねると独居生活となり、現在の在宅福祉では対応は厳しくなります。母子・父子の増加も含めて公的補助金の制度は質と量ともすでに限界にきています。離婚者を含めて男女が気軽に知り合える場の提供が必用です。この場の提供については、社会福祉協議会に結婚相談室があり、民間団体では合コン的なイベントをされているところもあるようですが、結婚を考える人たちがトラブルに巻き込まれることなく安心して交流できる場がもっと必要です。



## 国際化

### アジア友好協会の設立

これまでの「京都北部国際交流協会」の活動を支援しながら、アジアを中心とした方々の生活援助や日常生活のソフト面に対する支援の強化が必要です。また韓国を中心とした国際交流協会的な役割を果たす機関も必用と考えます。

